



交通會議の開催に就て



田 中 好

○ 本會の新事業として、新年早々交通會議が開催さるべきことは、既に報道された所であつて之に對し世上頗る好評を博

しつゝ在るが、此種會議を開催するに至つたこと又は之が斯様に世上から歓迎されることは何を物語るのであらうか、夫れは言ふ迄もなく現在の交通施設が餘り亂雜に餘り個別的に經營され、其の施設經營の爲には相當の經費が投下さるゝに拘はらず其の効果は餘り擧らないで公衆の受くる不利益が甚しいから、何とかして之を合理的に救濟せむとする聲に外ならない。

交通の完全を圖る爲には各交通機關が連絡統一されることを必須の要件とすることは言を俟たない、従つて此要件を實現するが爲には國家に一箇の完全な交通政策の存することを必要とするのであるが、鐵道やら道路の普及を強調する政治家はあつても此兩者の統一連絡を主張する者がない、會之を力説する者があつても唯だ夫れを言ふだけのことであつて、實行策に就て確信がなく殆んど評するに足らない、此の如き狀況で推移したならば、我國の交通が行き詰りの状態に陥るのは目睫の間に在る、之を打開する手段としては種々の方法を考察することが出来るが、最も緊急なことは有ゆる交通行政を一省に統一して主管せしむることである、蓋し如何に自由主義的見地に立つて考察しても、交通機關が其の本來の機能を遂ぐる爲には本質的に國家の統制を受けねばならぬものであるから、國家の交通行政を統一することは、やがて亂雑な交通施設を統一する根源と爲るからである、故に是等行政を一省に統一せしめ、完全な國家の交通政策を樹立せしめて其の政策の下に各行政機關を通じて交通行政を執行せしむるのを得策とするのである、此ことは吾人が一再ならず所論した所であるが、未だに朝に在る者の實現確信を喚起するに至らない状態に在る。

○

交通省創設論に對しては非難が無いでもない、官吏が謀議して事件を繁雜にし一課の創設から一廳省と漸次に築き上げ

て官吏生活の維持に備へるのは官僚的な仕業であると言ふやうな俗論に對しての批評は暫く措くが、交通省の創設に依つて國庫の負擔を増加すると言ふ反對論がある、併しながら是等は皮相の見解であつて、吾人の主張する交通省は現在各省各局に存する交通行政執行局課を廢止して一省に集中統制せしむるに在つて、之に依り従事員の共通等が行はれ寧ろ經費の節約と爲つても増加することの無いのは計算する迄もない、假に一步を讓つてその爲に經費が増加しても交通行政統制に依つて受くる大衆の利益に比較するときは言ふに足らないのである、況んや吾人が主張する如く遞信鐵道兩省と内務省土木局とを廢止し一省を新設することゝすれば却つて經費の節約を來すことは疑を容れない、或は行政の實際に徴して斯る膨大な一省を創設することは不可能乃至は不得策であると言ふ議論もあらう、成る程現在各省の有する職分量に比較すると膨大の嫌はある、併しながら其の職分を系統的に分割すると所謂政策的の意見を決定するものと、事業を管理するものとに爲るのであつて、之に各所屬長官を配し主管大臣が兩者を統制すれば些の煩瑣も來さないものであつて、論者の言は杞憂に過ぎない、此の如く交通省を新設することの利害得失は極めて明白であるにも拘はらず、尙解決の域に進まないのは何故であらうか、夫れは現代の政治家乃至は政黨が餘りに交通政策に盲目な勢であるのか又は之を知つてゐても目前の利害得失に拘り民衆の俗論に迎合せなければならぬ破目にあるのか、兎に角交通政策に就て百年の大計を高調するものが無い、政府も亦各種の調査會を創設して産業立國の實を擧げること力めてゐると言つてはゐるが、産業の進展に最も密接な關係ある交通の統制に就ては何等の調査研究を進めてゐない、之に逆行して交通は日一日と亂れて行くの状態に在る。

○

此ことの事例を廣きに亘つて求むるの必要はない、卑近の東京都市計畫區域内に於ける交通機關施設の例に徴して見れ

ば明かである、都市の内外に於ける交通施設に就ては都市計畫とし又は其の事業として一定の方針の下に統制し計畫するのが、都市計畫法が制定された最大の目的であるに不拘、帝都の交通は著しく亂雜に取扱はれてゐる、鐵道省は都市計畫とは無關心に都心を定めて郊外鐵道を免許し都市計畫の當局は又勝手に都心を定めて道路を築造してゐる、従つて道路と鐵道とは互に連絡を失つて其の効果を擧げ得やうとしても擧ぐることの出来ないような例は新宿や池袋乃至は高田の馬場等の各所に觀ることが出来る、國有鐵道山手線電車の停車場を廢止變更して新たな停車場を設けても鐵道省は唯だ夫れを設けるだけで後方道路との連絡は何等考慮されてゐない、唯一の地下鐵道にしても鐵道だけの本位に立脚して停車場を設け、停車場に來集し又は之より分散する旅客が如何な道路に依つて交通するかを考慮してゐない、と言つた調子で唯一であるべき交通現象を各交通管理機關互に獨立して取扱つてゐて、都市計畫法は東京に施行されてゐないかの感を起さしむる、帝都に於て既に然り他の都市に至つては言を俟たない。

○

此の如く紊亂してゐる交通施設を統制するのは國家の責務であるが、政府が之を爲さざる現在に於ては何とかして叙上のやうな交通行政統制の理想を實現せしめ、又は夫れに近寄らしむる必要が起つて來る、之を實現せむとするのが本會の交通會議開催の最終目的である、近く開かるべき會議に於ては、東京市内外に於ける道路施設に關すること及道路の占用並に其の交通に關することに關し刻下解決の急に迫つてゐる重要事項に就て論議さるゝのであるが、是だけを以てしては叙上の目的を達するに餘りに不十分である、更に之を各都市に及ぼすの外交通一般に關する事項に迄及んで論究するの必要がある、併しながら政府に代つて政府の交通政策を指導し其の行政の連絡統制を期せしむることは容易な業で無い、之

を爲し遂ぐるには官民間に於ける識者權威者の協同團結を必要とするのである。

水上交通乃至は水陸連絡交通に關することは暫く措き、陸上交通機關に關する事項の研究を目的とし、又は是等交通機關の事務に携はる官民有志の社團は我國に於ても其數決して尠くない、鐵道又は軌道を目的とするもの或は道路若は自動車等を目的とするもの等、各種事業別に見ても十指を屈すも尙足らない感がある、是等のものが其専門に屬する事項を研究することは固より喜ぶべきことではあるが、陸上交通機關には共通性を包含する事項が尠くない、従つて各種の社團が獨立して此共通性を持つる事項を研究するよりは大同團結して其の目的を達することは、交通省を創設して國家の交通行政の統制を圖るのと同じであつて、之を要求するに先ち民間に於ける社團が大同團結することを急務とするのである、固より各社團は其の創立の沿革乃至は組織者の採る主義に於て同一ではない、併しながら其の究極の目的とするところが陸上交通政策乃至は其の行政の改善に在る以上は團結して論究すべき可能性否な必然性を有するものであるから、團結は左程の難事ではない、交通省創設の必要を絶叫する士であつて尙是等の小社團を創設することに奔走し、既存社團の團結を顧みないのは吾人の頗る遺憾とする所であつて、近時關西に於て創立總會を開いた某社團の創立の如きは吾人の贊せざる所である。

以上要するに行詰つた現時の陸上交通を打開し改善するが爲には、交通行政の改善を必要とするに不拘、政府之を爲さざるが爲に民間有志の力に依つて政府當局を指導し鞭撻するには各社團が大同團結して、所謂斯界の權威ある意見を決定して政府に建言し之を實行せしむるに在る、之が爲には各社團が創立沿革乃至は組織者の感情等に捉はるゝこと無く、本會主催の此會議に参加し交通行政統制改善の實を擧ぐることに、各社團の目的であり且つ任務であらう、敢て反省を求めて贊同を請ふて已まない。